

野田市農産物直売所指定管理者候補者 選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時 平成31年2月4日（月）午後1時30分から午後2時まで
開催場所 野田市役所5階 512会議室
出席委員 総務部長（副委員長）、企画財政部長、行政管理課長、管財課長、
自然経済推進部長
欠席委員 副市長（委員長）
事務局 農政課、行政管理課

1 開会

＜副委員長から開会の言葉＞

2 議事

平成30年度（4月～12月）野田市農産物直売所業務報告書及び平成31年度
野田市農産物直売所業務計画書の審査について

＜事務局から平成30年度（4月～12月）野田市農産物直売所業務報告書及び平
成31年度野田市農産物直売所業務計画書について一括して説明＞

＜審議の概要＞

- 業務報告書3ページの緊急時の危機管理への取組状況について、品質管理として「停電が実施された場合を想定して、冷凍食品や農産物加工品などの品質保持を念頭に、陳列ケースの温度管理を検討した」とあるが、具体的にどういうことか。
→ 一定時間の停電を想定して、品質保持温度を超えないように、通常よりも5程度低い温度に設定している。また、冷蔵庫ショーケースには、停電時に「のれん」をすることで、極力長い時間、商品の品質が保持されるように対応している。
新鮮野菜を提供できるよう店内自体が低い温度設定となっていることと、現在陳列されている商品を考えてみると現状の温度設定で十分であると考えている。

- 業務報告書4ページの管理経費縮減への取組状況内の、「売れ残り農産物等の持ち帰りを義務づけて、守らない者には1件につき100円を徴収することとして、生産者の自覚に訴えて、積極的にゴミの減量化に取り組み、廃棄物処分費の削減に努めた」という記載があるが、この取組に至ったいきさつには、持ち帰りが十分でない事情があったのか。また、現在の持ち帰りの状況を教えてほしい。
→ この取組に至った経緯として、持ち帰りが十分でない現状があり、前日の商品が翌日にそのまま残ってしまい品質悪化のリスクが発生する状況がみられた。
口答や文書のみでは完全に改善されないため、新たな取組として、生産者へ承諾を得た後に割引したサービス品として販売を行うことで、廃棄物処分の削減と売上

貢献に寄与できたと考えている。

○ 業務報告書4ページの管理経費縮減への取組状況内の「閉店時間の変更」による経費縮減効果について教えてほしい。

→ 30年度は9月から閉店時間を変更したため、夏場期間として営業している3月から10月までの9月及び10月が縮減対象となり、午後5時30分から午後6時30分までの1時間分の人件費として、店長1名及び販売員1名分の経費が縮減された。更に、対象月の光熱費についても経費縮減効果があったと考えられる。

また、31年度では、夏場期間の3月から10月までの8か月間の、店長1名及び販売員1名の1時間分の人件費及び光熱費の経費縮減が見込まれる。

29年度の該当月の売上実績と人件費を比較すると、閉店時間を変更することで経費縮減効果はあると考えている。

○ 業務報告書12ページの収支状況報告のイベント費用について、今後の執行見込みがなく3割強が執行残となっているが、その理由は何か教えてほしい。

→ 各イベントの開催日数の見直しを実施するとともに、生産者が各イベントへ参加できるか確認し、参加人数に応じて模擬店等で販売する種類や量を協議することでできる限り過剰準備をなくし在庫を持たないように努めている。それでも在庫が発生した場合には、次のイベントに使用することで、少しでもイベント費用の縮減に努めているため、執行残ができたものと考えている。

○ 業務報告書12ページの収支状況報告の収支状況では、前期繰越金が増えており、健全な運営ができていると思われるが、完全利用料金制の下で運営していく中で、現状として売上げが上がっていないこともあることから、今後の運営における方針等があれば教えてほしい。

→ 現状に満足せず、新しい生産者、特に若手の生産者を増やすことを検討している。また、現状では枝豆を主力としているが、販売できる期間にも限りがあることから季節に応じた主体となる野菜を考えたい。なお、黒酢米の販売拡大も検討するなど組織自体の新陳代謝も実施したいと考えている。

○ 業務報告書12ページの収支状況報告及び業務計画書の8ページ収支計画の給与に関して、決算額と予算額が同額になっているが、最低賃金上昇分も加味して計画されたものなのか教えてほしい。

→ 最低賃金上昇分及び30年度の閉店時間変更による管理経費縮減を含めた計画としている。

<審議の結果>

平成30年度(4月～12月)野田市農産物直売所業務報告書及び平成31年度野

田市農産物直売所業務計画書について承認

3 閉会